

音楽の隠し味 Op.12

最終回

このコーナーでは、作曲家や有名曲の意外な一面を知ること
でクラシック音楽をより楽しめる「隠し味」をご紹介します。

第12回目はJ.S.バッハです。

連載最終回はバッハについて執筆する、と執筆が始まった
時から心に決めていました。J.S.バッハ(ヨハン・セバスチヤ
ン・バッハ)はこの世の中に出ている音楽全ての源といつて
も過言ではないからです。

バッハは1685年から1750年に生きた作曲家。日本ではちよ
うど江戸時代中期で、松尾芭蕉が奥の細道の旅に出たり、
忠臣蔵(ちゆうしんぐら)という人形浄瑠璃・歌舞伎演目が初
演された頃です。「G線上のアリア」「主よ、人の望みの喜び
よ」などが代表曲でテレビドラマやアニメ等様々なシー
ンで使用されています。

音楽家一族の中で誕生したバッハは、自分の家系を誇りに
思っていました。音楽家としてのルーツを記録したバッハ
家系図を作ったり、「バッハ(BACH)」はドイツ語音名だと
「シ・ト・ラ・ド・シ」という意味にもなりますが、それを作品
の中にも多用しました。晩年にも作品の中で「BACH」と音名
で書いている時に亡くなった、と伝えられています。

幼少期から音楽が身近な環境で育ち、長兄のもとで演奏の
基礎を学びました。好奇心旺盛で勉強熱心だった彼は、
とくに音楽の才能を開花させていました。しかし当時巨
匠とされていたのはヘンデルとテレマンという2人の作曲
家で、バッハには今ほどの名声はなかったのです。他の若
い音楽家と同じように、試験を受けて地元の教会や宮廷で
せせと働いていました。採用理由には「音楽の才能が認め
られたから」ではなく、「生徒達にラテン語も教えられる
から」といった教会(学校)もありました。仕事は激務。毎週
日曜日の礼拝の為に作曲・演奏用パート譜作成・練習と働き
詰めで、海外に演奏旅行をして名声を得る暇などありませ
んでした。

それではどうして今は誰もが知っている作曲家となったの
でしょうか。バッハはドイツ語で「小川」という意味ですが、
それこそ小川が少しずつ大海に向かっていくように、亡く
なった後長い年月をかけて名声を獲得していくのです。

モーツァルトは、バッハの息子と親しくなってからJ.S.バッハ
に魅せられ、影響を受けた作品を残しています。

ベートーヴェンが12歳の頃にピアノ練習用として使ってい
た教本は、J.S.バッハが作曲した平均律クラヴィーア曲集で
す。そんなベートーヴェンを尊敬していたのがシューベルト
やブラームス、ワーグナーで、彼らはベートーヴェンを研究
する事で、ベートーヴェンを通してバッハを知り少なからず
影響を受けます。

バッハが爆発的にブームとなったのは、彼が亡くなってから
約80年後、若い作曲家で指揮者のメンデルスゾーンという
人がバッハの「マタイ受難曲」を見事に演奏してからです。



白川 優希 Yuki Shirakawa

横浜市立南高等学校普通科卒業。桐朋学園大学ピアノ科卒業。これまでに井上節子、川島伸達各氏に師事。阪急交通社「たびコト塾」有料音楽講座にて講師兼演奏。

メディア

- ・NHK BSプレミアム 特別ドラマ「黒蜥蜴〜BLACK LIZARD」ピアノ演奏。
- ・テレビ朝日系列「はじめまして、愛しています。」ピアノ監修。
- ・フジテレビ系列「世にも奇妙な物語「シンクロシティ」」ピアノ協力(自身出演・演奏)。



ピアニスト 白川 優希

これを機にJ.S.バッハの名
声が見直され、神格化され
ていきます。

シューマンは自ら「バッハ
協会」を設立し、尊敬を表
明しました。そんなシュー
マンに師事したブラームス
は志を継いで「旧バッハ全
集」刊行に協力しました。

ドビュッシーはこれまでに
作曲された西欧音楽の
ルールに疑問を持ち、辛口

な評論文を書いていたがバッハに関しては強く尊敬し、「バッハが作る音楽の、多数平行している曲線同士の出会いが、偶然か必然か人の感動を誘う。」と評論を残しています。

バッハが弟子に対し、「ただ正しい譜を正しい瞬間にた
たけばいいだけで、後はオルガンがしてくれる」と言った
という逸話があります。バッハの作品は、「音楽」があるべ
き姿とはこのような形だったのではないかと、思うほど
自然で惹きつけるものがあります。自然な姿だからこそ、
彼の作品は美しいのです。J.S.バッハが残した作品は「音
楽」の隠し味となっているのではないのでしょうか。

おすすめの一曲

J.S.バッハ/平均律クラヴィーア曲集

バッハは、1724年に自分の家族の為に作った曲を改訂し
て「平均律クラヴィーア曲集」を作り上げました。勉強熱
心な音楽家の有益な使用のために、熟練した音楽家の
娯楽のために、と演奏する上での教本を完成させたので
す。この教本はベートーヴェンも使用していた事で知られ
ていますが、他にもショパンがこの曲集から刺激を受け
て「24の前奏曲」という曲集を出しました。

現在は音楽大学を受験する時やコンクール課題などに
多用され、演奏の基礎とされています。芸術的な観点から
見ても濁りがなくシンプルで美しい響きが特徴の曲集
を是非聴いてみてください。

「Das Wohltemperierte Klavier」で検索すると様々なピア
ニストの演奏を聴くことができます。

主な参考文献

- 樋口隆(1985年初版、2015年第二十二刷)『バッハ』新潮社
- ミヒャエル・コルト・シュテファン・クルマン/訳 三宅幸夫・山田良造(1990)『バッハ』音楽之友社
- 磯山雅(1990年初版、2010年第二十七刷)『J.S.バッハ』講談社
- アンナ・マクダレーナ・バッハ/訳 山下肇(1997年初版、1998年第三刷)『バッハの思い出』
- 門馬直美(1999)『ブラームス』春秋社
- 西原稔(2005年初版、2006年第二刷)『音楽史ほんとうの話』音楽之友社
- 越藤澤麻衣(2020)『ベートーヴェンとバロック音楽』音楽之友社